

☆講 演☆

- ◇教授 森脇義雄「ロンドンにおける URSI 第 13 回総会に出席して」電波科学研究連絡委員会(第6分科会)(1960.11.29)
- ◇教授 森脇義雄「第 13 回 URSI 総会に出席して」電気通信学会マイクロ波伝送研究専門委員会(1961.1.16)
- ◇助教授 森 政弘「人工内臓とその自動制御」中部自動制御研究会(特別講演)(1961.1.19)
- ◇教授 藤高周平, 技官 河村達雄「雷放電カウンタによる観測結果」高電圧技術研究会(1961.1.19)
- ◇教授 藤高周平, 技官 河村達雄「雷放電カウンタによる観測結果(第2報)」雷害事故調査委員会(1961.2.16)
- ◇助教授 森 政弘「自動制御のある真実面(一実施者の見解)」東北大学電気通信研究所(1961.2.17)

☆寄 稿☆

- ◇教授 高橋武雄, 助手 白井ひで子 "Determination of lead, Cadmium and Zinc ions in large excess of Indium ion using the alternating current polarograph," TALANTA, **5**, 193-8. (1960.9-10)
- ◇教授 高橋武雄, 技官 桜井 裕 "Coulometric titra-

tion of iron^{II} by electrolytically generated bromine" TALANTA, **5**, 205-212 (1960.9-10)

☆海外渡航状況☆

- ◇第3部 高木 昇教授は宇宙科学開発調査団の団員として2月22日出発, 約1カ月半の間, アメリカ, カナダ, イギリス, フランス, 西ドイツ, スイスの諸国を視察の上帰国の予定である。
- ◇第4部 浅原照三教授は, 文部省在外研究員としてアメリカでの一年間の研究を終え, 去る2月6日帰任した。

☆岡 宗次郎教授停年退官☆

第4部 岡 宗次郎教授は, 本年3月末日をもって停年退官される。同教授は大正15年東京大学工学部応用化学科を卒業し, 工業電気化学, ついで工業分析化学を専攻し, 工学部講師・助教授を経て, 昭和17年第二工学部教授となり, 工業分析化学第1講座を担当, 昭和24年生産技術研究所に移行と共に第4部教授として, 無機工業分析の研究をつづけて今日に至った。かたわら昭和30年より2年間本誌の編集委員長として活躍され, また昭和33年分析化学センターが工業技術院東京工業試験所に設置されると共にその業務をも兼担し, あるいは日本分析化学会の会長・副会長・理事などをつとめて, わが国の分析化学の発展に尽力されている。

筆 者 紹 介

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇高 橋 武 雄 教授 工博 専攻 有機工業分析学 ◇祖 父 江 寛 教授 (東大工学部) 理博 専攻 高分子化学 ◇井 本 稔 教授 (大阪市立大学工学部) 工博 専攻 同上 ◇大 津 隆 行 助教授 (同上) 専攻 同上 ◇齋 藤 篤 二 大日本インキ製造株式会社 開発研究部長 | <ul style="list-style-type: none"> ◇高 橋 章 一 大日本インキ製造K K開発研究所 助手 工博 専攻 無機工業化学 ◇妹 尾 学 助教授 (東大航空研究所) 専攻 物理化学 ◇川 井 栄 一 古河電気工業株式会社 横浜電線製造所 ◇武 内 次 夫 教授 (名古屋大学工学部) 専攻 工業分析化学 |
|---|--|

出版委員	委員 安藤 良夫	委員 館 充	専門委員 星野 昌一
出版委員長 久保田 広	石原 智男	河添邦太郎	斎藤 成文
委員 大井光四郎	安達 芳夫	田中 尙	玉木 章夫
*小瀬 輝次	浜崎 襄二	三木五三郎	編集室 下村潤二郎
竹中 規雄	*高橋 武雄	(*印 当番委員)	水野 晴明

第 13 卷 第 3 号

生 産 研 究

(本誌は生産技術研究所の研究紹介誌として, 毎月1回発行する)

1961年3月1日発行

印刷所

三美印刷株式会社
東京都千代田区神田多町2の7

頒価 120 円

編集者

久 保 田 広

発行所

東京大学生産技術研究所
千葉市弥生町1
電話千葉(2) 0261(代表)

発行者

福 田 武 雄